

令和 5 年度 北河内薬事懇話会 議事概要

日時：令和 5 年 11 月 17 日（金）午後 2 時～ 4 時

場所：大阪府守口保健所 8 階講堂

1 開会

2 議題

(1) 第 8 次大阪府医療計画（府域版）素案の概要について

大阪府健康医療部生活衛生室薬務課より説明

ア 第 8 次医療計画素案（薬事関係）〔資料 1〕

当該計画では、第 6 章 在宅医療、第 7 章 5 疾病 5 事業の医療体制（第 7 節災害医療）、第 8 章 その他の医療体制（第 7 節薬事対策）、第 9 章 保健医療従事者の確保と資質の向上（第 3 節薬剤師）に、薬剤師に係る内容が記載されている。

(2) 医療機関や多職種との連携について

ア 薬局の在宅医療推進事業について〔資料 2-1〕

大阪府薬剤師会より説明

(ア) 地域薬剤師会研修会等で当該内容に係る研修（同行研修）を実施している。

(イ) 薬局薬剤師を対象にした病院退院時服薬指導等への同行研修（多職種との共同研修）を実施している。

イ 当院における連携充実加算の運用について〔資料 2-2〕

関西医科大学附属病院薬剤部より説明

(ア) 薬薬連携とは、病院-薬局間の薬剤師同士の連携のことであり、患者の情報（検査値や投与薬剤等）を共有することで、安心して薬物療法を継続できる。

(イ) 2023 年 4 月から、がん患者に対して必要な服薬指導を行った場合の情報提供のツールとしてのトレーシングレポートを整備し、研修会を継続的に開催する予定。

ウ 各地域薬剤師会における医療機関や多職種との連携状況〔資料 2-3〕

各地域薬剤師会より説明

(ア) 枚方市薬剤師会

枚方市には基幹病院が関西医大枚方病院、市立ひらかた病院、枚方公済病院、星ヶ丘医療センターの 4 病院あり、薬薬連携の研修会の開催等について連携して実施している。

(イ) 北河内薬剤師会

交野市については、令和6年2月に、医療・介護連携会を実施予定。

四條畷市については、地域密着型サービス等運営委員会が発足。

大東市については、野崎徳洲会病院を中心とした地域病院と、会員薬局で薬薬連携研修会を本年度から実施。本年度は8月と12月(予定)に開催。

(ウ) 門真市薬剤師会

門真市多職種事例検討会を11月18日実施予定。その他の取り組みとして、北河内地区薬薬連携の会、守口・門真病診薬薬連携セミナー、守口・門真薬薬連携セミナーを実施している。

(エ) 守口市薬剤師会

地域柄、門真市薬剤師会と共同でする研修が多いが、守口市独自の研修の一つとして、「TSUNAGU」という松下記念病院若手薬剤師との発表型研修会がある。

主任ケアマネージャー対象の法定外研修(タイトル:薬剤師から見るBCPと災害時の役割について)に講師として参加した。

(オ) 寝屋川市薬剤師会

多職種連携に関しては、今までは参加する立場が多かったが、2年前から主催する側(寝屋川市Meetup!等)に回っている。それにより市内の多くの多職種連携の方から研修の要望があり、継続して実施している。研修を多く実施することにより、全会員が参加できるようにしたいと考えている。

多職種による薬剤師の必要性をさらに認知してもらうためにはどうしたらいいのかが課題である。

災害関係については、病院とのつながりを作る必要があると考えるため、ねや川サナトリウムとの病薬連携研修会(災害に係る内容を含む。)を実施している。

(3) その他

ア 認定薬局の推移について [資料3-1]

大阪府健康医療部生活衛生室薬務課より説明

(ア) 大阪府の認定薬局数として、地域連携薬局は日常生活圏域(中学校区)に1薬局以上、専門医療機関連携薬局は二次医療圏ごとに1薬局以上を目標としている。

(イ) 認定薬局を増やしていくために、認知度等を上げていくことが課題である。

(ウ) 大阪府内のジェネリック医薬品の使用実績リストをHPに掲載している。

《主な質問・意見等》

・関西医科大学附属病院薬剤部の説明に関して、関西医科大学附属病院HP上に研修会

の案内を掲載する ということだが、各地域薬剤師会にも情報提供し、その開催の周知に活用してもらいたい。

- ・災害関係の対応について、令和5年6月1日の大雨時に安否確認参加会員に対し連絡をしたところ、返信があった会員は3日間で全体の70%であった。
- ・災害関係の対応について、安否確認の対応を年2回実施しているが、ほぼ100%の返信率である。このような訓練は日ごろから使用していないと、いざという時に使えないので、このような訓練は継続することが望ましい。
- ・多職種連携における24時間営業の薬局や薬剤師の在宅対応について、一人薬剤師での薬局も多く、マンパワー不足が課題として挙げられる。また、災害時において、診療所や薬局が機能できるかが懸念点であり、会員薬局の安否確認がしっかりできるシステムの整備が重要である。
- ・不適切な医薬品の飲み合わせ等もあるので、医薬品情報を薬剤師と歯科医師とで共有できたらいいと考えている。

3 閉会